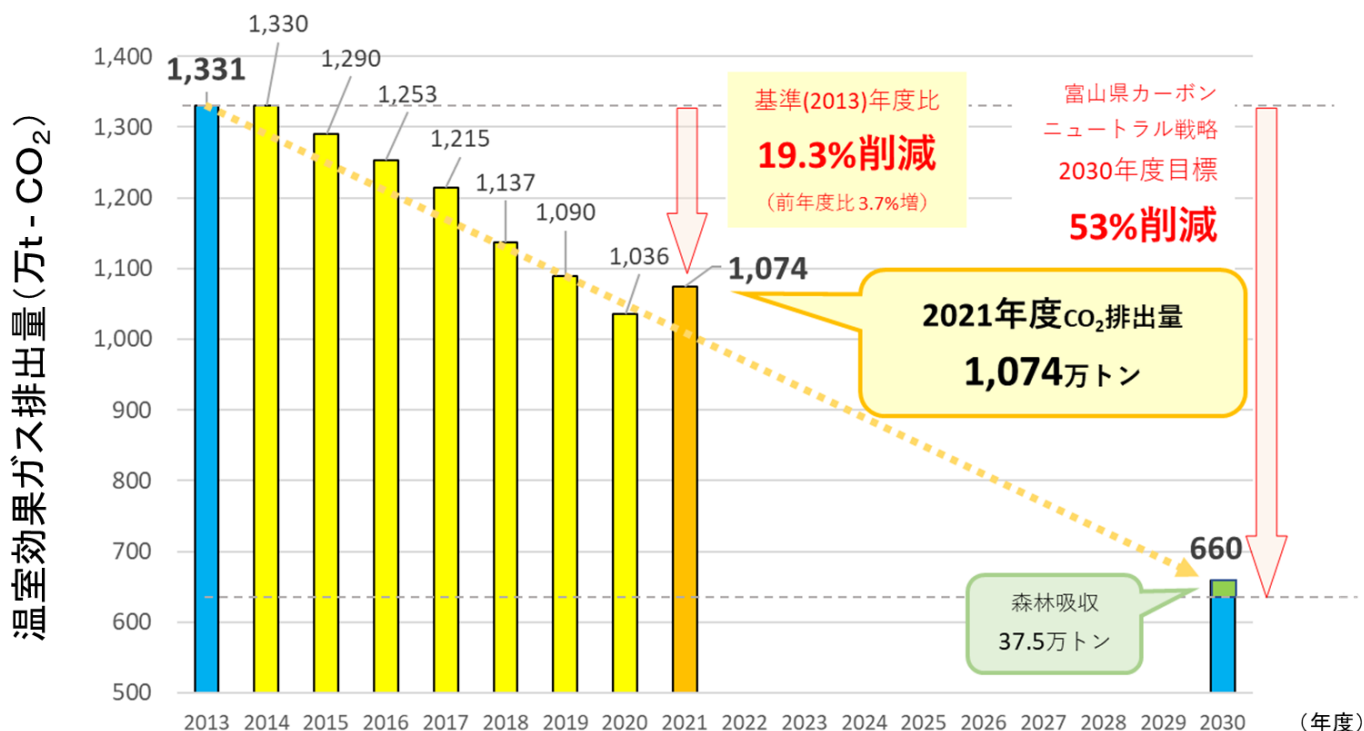


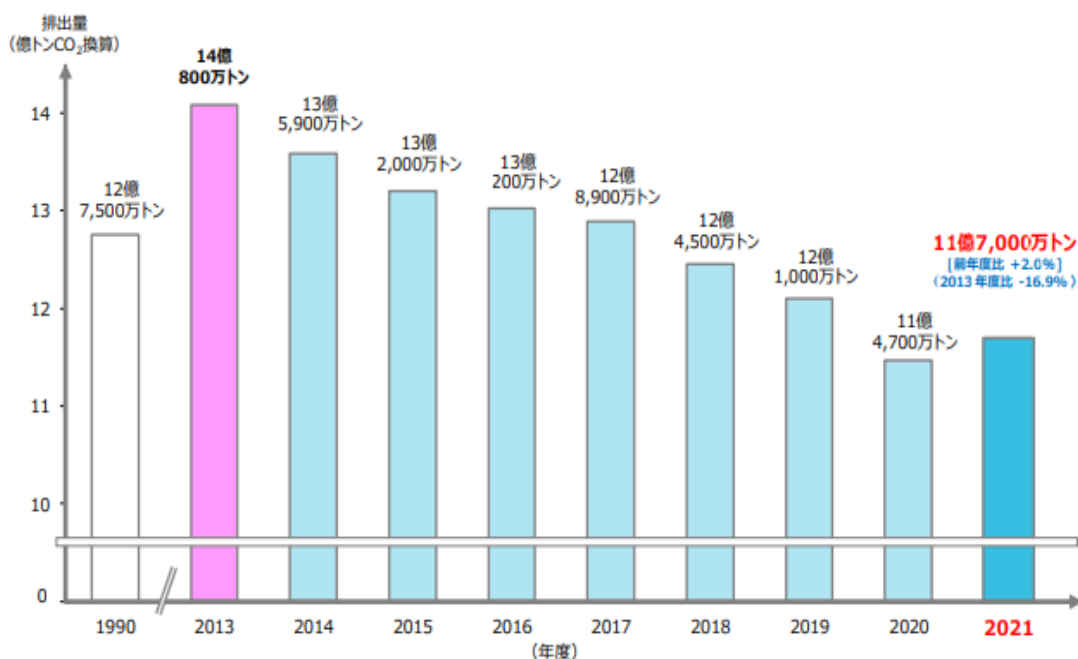
# 富山県における温室効果ガス排出量の算定結果（2021年度・速報値）

## 1. 温室効果ガス排出量

2021年度の県内の温室効果ガス排出量は1,074万t-CO<sub>2</sub>で、富山県カーボンニュートラル戦略の基準年度（2013年度）と比べると19.3%（257万t-CO<sub>2</sub>）減少、前年度（2020年度）からは3.7%（38万t-CO<sub>2</sub>）増加した。2021年度は全国の排出量も前年度比2.0%増加しており、新型コロナウイルス感染症で落ち込んでいた経済の回復によりエネルギー消費量が増加したこと等が主な要因とされている。



【図1】 県内の温室効果ガス排出量の推移



（参考） 全国の温室効果ガス排出量の推移

出典：環境省 2021年度（令和3年度）の温室効果ガス排出量・吸収量（確報値）について

## 2. 部門別の排出状況等

### ○ 産業部門（工場等）

2021年度の温室効果ガス排出量は364万t-CO<sub>2</sub>で、基準年度比で30.3%（159万t-CO<sub>2</sub>）の減少、前年度比では0.8%（3万t-CO<sub>2</sub>）の増加。概ね順調に排出削減が進んでいるが、引き続き着実に取り組む必要がある。

### ○ 民生家庭部門

2021年度の温室効果ガス排出量は194万t-CO<sub>2</sub>で、基準年度比で20.8%（51万t-CO<sub>2</sub>）の減少、前年度比では2.2%（4万t-CO<sub>2</sub>）の増加。排出削減が進んでおらず、対策を強化する必要がある。

### ○ 民生業務部門（事業所・商業・サービス等）

2021年度の温室効果ガス排出量は145万t-CO<sub>2</sub>で、基準年度比で21.2%（39万t-CO<sub>2</sub>）の減少、前年度比では6.9%（9万t-CO<sub>2</sub>）の増加。排出削減が進んでおらず、対策を強化する必要がある。

### ○ 運輸部門（自動車等）

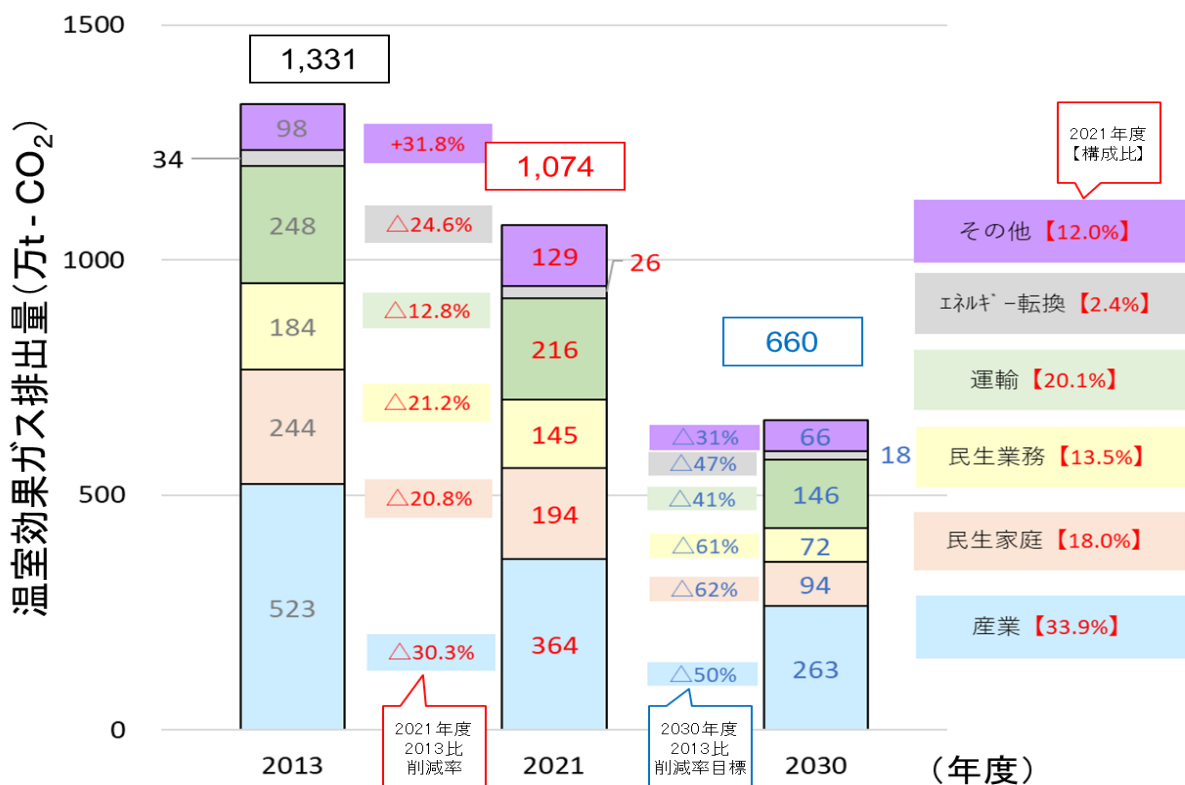
2021年度の温室効果ガス排出量は216万t-CO<sub>2</sub>で、基準年度比で12.8%（32万t-CO<sub>2</sub>）の減少、前年度比では0.1%（0.2万t-CO<sub>2</sub>）の減少。一定程度排出削減が進んでいるが、対策を強化する必要がある。

### ○ エネルギー転換部門（発電所における自家消費分）

2021年度の温室効果ガス排出量は26万t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度比で24.6%（8万t-CO<sub>2</sub>）の減少、前年度比では6.5%（1.6万t-CO<sub>2</sub>）増加した。

### ○ その他部門

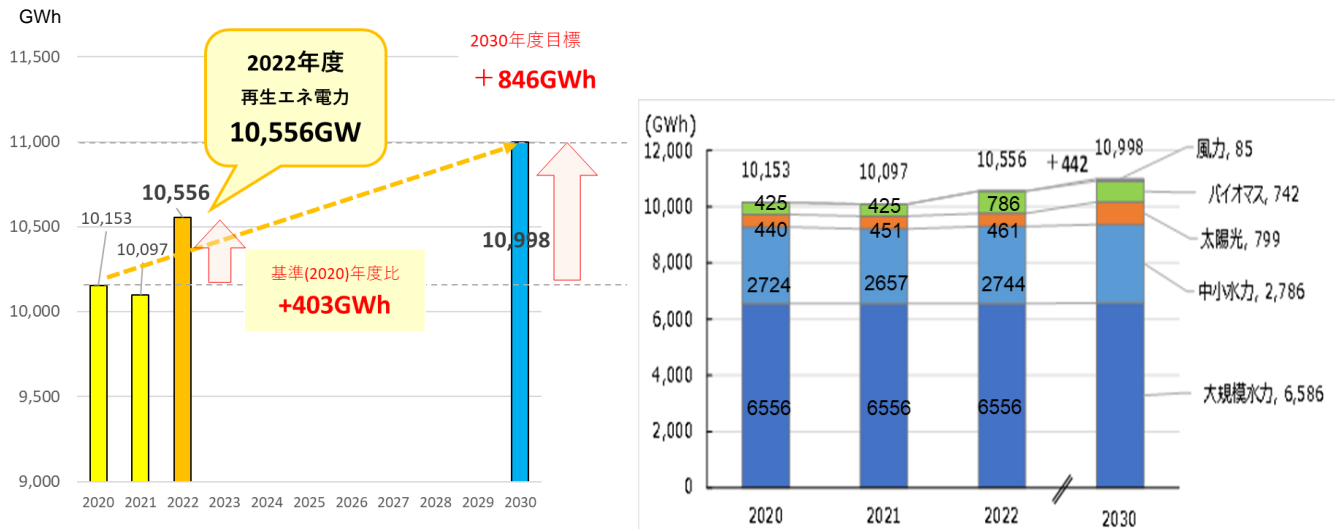
2021年度の温室効果ガス排出量は129万t-CO<sub>2</sub>であり、基準年度比で31.8%（31万t-CO<sub>2</sub>）の増加、前年度比では18.5%（20万t-CO<sub>2</sub>）減少した。基準年度からの排出量の増加は、ハイドロフルオロカーボン（HFC）等の排出が増加したことなどによると考えられる。



【図2】部門別温室効果ガス排出量（基準年度・目標比） ※[ ]内は内訳（有効数字の四捨五入により合計が合わない場合があります。）

### 3. 再生可能エネルギー導入量

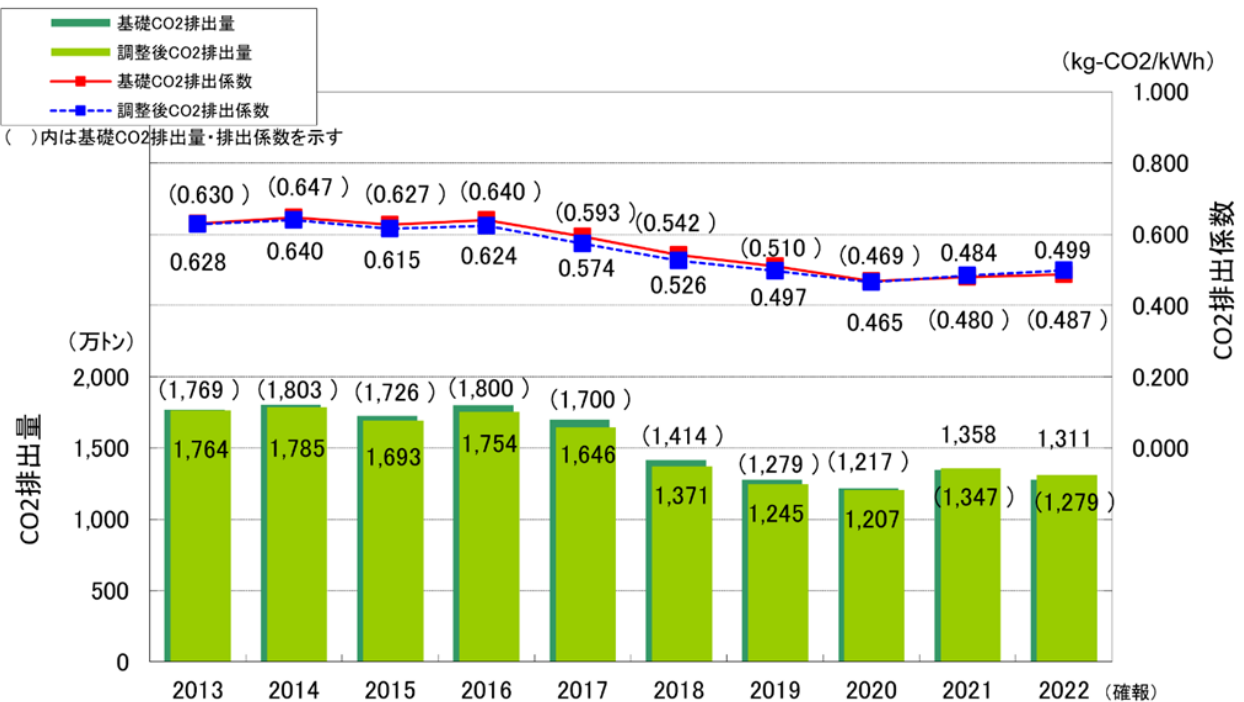
2022年度の再生可能エネルギー発電の導入量（電力発電量）は、富山県カーボンニュートラル戦略の基準年度（2020年度）から403GWh、4.0%増加した【図6】。今後目標を達成するためには2030年度までに442GWh分の発電設備の導入が必要である。バイオマス発電は2030年度目標を既に達成しているが、水力発電、太陽光発電、風力発電については、今後さらなる導入の推進が必要である。



【図3】再生可能エネルギー電気の導入状況

### 4. 参考データ

#### ●北陸電力のCO<sub>2</sub>排出量と電力のCO<sub>2</sub>排出係数の推移



出典：北陸電力株式会社 事業者別CO<sub>2</sub>排出係数・排出量の推移